

誇り持つ西米良村の人々と交流

農作業体験ワーキングホリデーに参加

文学部人文・ジャーナリズム学科の荻原幸子教授(生涯学習政策論)のゼミ生松浦道嘉さん、坂本武慶さん(いずれも3年次)はこの夏、宮崎県児湯郡西米良村のワーキングホリデーに参加(9月3〜7日)。農業を体験してきた。松浦さんに寄稿してもらった。

文学部人文・ジャーナリズム学科
荻原 幸子ゼミ

松浦 道嘉(文3)

宮崎県児湯郡西米良村が総面積の96%実施している「西米良型ワーキングホリデー」に参加しました。

西米良は、宮崎県西部の九州中央山地に位置する人口約1300人の村です。



▲ 松浦さん(右)と坂本さん



▲ 荻原教授(左端)。村のおばあさんたち

なごをいろいろと伺いました。最終日の朝に、黒木定藏村長に時間を割いていただき、お話を伺うことができました。2日間の農作業体験や、村の人々との交流を通して、西米良村の誇りを生きているという

草取り、清掃からピーマンの収穫まで

つ自然を満喫できる仕組みになっています。翌日から2日間がワーキングです。私は2日間ともピーマン農家の児玉光正さんにお世話になりました。黒木敬介さん、初日は、ビニールハウス内の草取り、清掃をしました。作業はもちろん、何よ

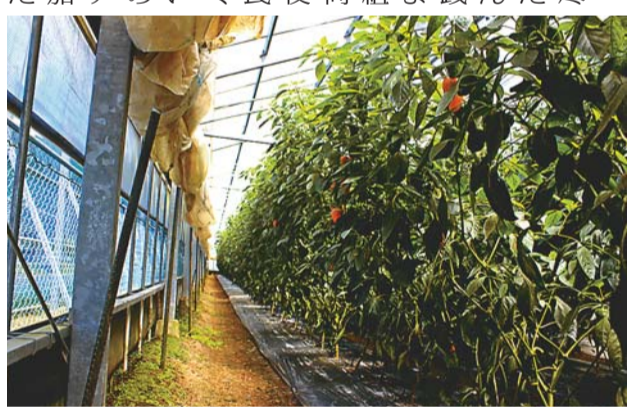
らバスで3時間という行程で村に着きました。3日目は、村おこしに尽力されてきた黒木敬介さんに、村が実践してきたさまざまな取り組みについて伺いました。夜には、村の民話を語り継ぐ活動をしてい



▼ のどかな西米良村



方言も新鮮で話をしてい



▲ ピーマンの収穫も

村おこしの取り組みや民話の語り部に触れる



▲ 白山通りの裏道にあるオッカラン

人と人をつなぐ「多国籍多文化」雑貨店

オッカラン

「神田神保町は、都心にありながら庶民的で、人と人との距離が近い街。店を持つならここで思っていました」
店主自ら買い付けに行くことが多い。「ものごとの出合いは人」との出会いはある。
タイのバッグは、作り手とアイ北部で出会った。手作りの一品一品それぞれ違う顔を持つ。
また、野鳥の会の長ぐつは、フジロック・フェスティバルなどの野外コンサートで話題になり、同店でも一時品切れになった人気商品だ。
若い人向けの店と思われがちだが、客は老若男女幅広い。
「お昼休みにふらりと寄ってくるサラリーマンの方がいます。近くの高齢者センターに通っているおばあさまは『ここに来ると落ち着くわ』って。うれしいですね」
「のりこさん」の温かい笑顔が、世界中から来た製品と神田神保町の人々を結んでいる。
※「オッカラン」 東京都千代田区神田神保町2の26(03・6268・9898) 不定休。営業時間は13時〜20時(日・祝は18時)



▲ カラフルな店内で「のりこさん」